

再処理工場および MOX 燃料工場に関する設工認審査の今後の対応について

当社は、これまで再処理工場は「2024年度上期のできるだけ早期」、MOX 燃料工場は「2024年度上期」をしゅん工時期として、設工認の審査、工事、検査に取り組んでまいりましたが、この度、以下の理由から両工場ともに、2024年9月以降も審査への対応が継続すると判断いたしました。

【再処理工場】

7月17日に開催された原子力規制委員会の審査会合で「基本地盤モデルに基づく耐震設計の進め方」、「構造設計等の説明の進め方」をご説明し、全体の計画が見通せる状況になったことから、8月の審査会合で今後の審査の「説明の全体計画」をお示しすることとしました。

耐震設計の基準適合性を説明するためには、設計の考え方（設計上のルール）の妥当性を確認した後、基本地盤モデルを用いた各建屋等および建屋に設置する全ての機器・配管等を再評価すべきと判断しました。

構造設計等の基準適合性を説明するためには、技術基準の要求事項等から展開した設計の考え方（設計上のルール）の妥当性を確認した後に、必要に応じて設計の考え方に立ち戻り構造設計等を見直したうえで、その考え方どおりに機器・配管等が設計されていることを確認すべきと判断しました。

これらの全体の作業および説明に1年程度を要すると見込みました。

	2024年度	2025年度
耐震設計	▽現在(8月) 設計の考え方の妥当性確認	評価結果の説明
構造設計等	設計の考え方の妥当性確認	設計結果の確認

再処理工場の今後の説明の全体計画（概要）

【MOX 燃料工場】

MOX 燃料工場の設工認審査は初めてであるため、構造設計等の説明の進め方の整理を、再処理との関連性および整合性を考慮して網羅的に実施してまいりました。このため、説明方針の共通認識を得るまでに時間を要し、現在も審査が継続している状況であり、8月の審査会合で示す第2回申請の説明計画を考慮すると、9月を超える見込みです。

当社は、8月26日の審査会合を踏まえ、再処理工場および MOX 燃料工場に関する設工認審査の期間を見極めたうえで、工事、検査に要する期間を精査し、新たなしゅん工目標について検討してまいります。

以上